

「電気用品の技術基準の解説」の見直し依頼票

見直し依頼元： JET

見直し依頼日： 2020 年 1 月 31 日

現状解説（解説本 第 15 版 801 ページ）	見直し案	提案理由
別表第八 2(102) 直流電源装置の解説 2. イ項(ロ)の、「極性の別を誤まるおそれのない構造のもの」には、器体から容易に取り外すことのできないスイッチその他のものの表示等により極性を容易に識別できるものを <u>含む。</u>	2. イ項(ロ)において、 (1) 「 <u>直流側の端子または口出線</u> 」には、器体に附属した直流側の接続器を含む。 (2) 「極性の別を誤まるおそれのない構造のもの」には、器体から容易に取り外すことのできないスイッチその他のものの表示等により極性を容易に識別できるもの <u>及び器体に電池を特定の方向にだけはめ込むことができる構造のものを</u> 含み、他の負荷機器に接続したとき極性が異なるおそれのある接続器は含まない。 (3) <u>ユニバーサル・シリアル・バス（以下、「USB」という。）規格に準じた形状及び端子配置の接続器は、「極性の別を誤まるおそれのない構造のもの」として取り扱う。</u>	従来から運用している、次の取り扱いを明確化するための解説を追加。 ① 器体に附属した直流側の接続器にも、直流出力電線に附属する接続器と同様に、従来から極性の表示を要求している。 ② 電動工具用の充電器など、専用バッテリーパックを直流電源装置本体にはめ込むもので、逆接続のおそれがないものは、他製品との誤接続のおそれが少ないため、「極性の別を誤るおそれのない構造のもの」として取り扱っている。 ③ 他の負荷機器に接続したとき逆極性になるおそれのある接続器は、「極性の別を誤るおそれのない構造のもの」とはみなしていない。 近年普及している、USB 規格の形状の接続器を用いた直流電源装置については、一般的に互換性をもたせるために、極性は USB 規格に準じた配置のものとなっているため、実態として、極性の別の表示の有無に関係なく、「極性の別を誤まるおそれのない」状況となっている。

（当該部解釈）

別表第八 2 （ 1 0 2 ） 直流電源装置^{（解説 1）}

イ 構造

（イ） （省略）

（ロ） 直流側の端子または口出線にあっては、そのものまたはその近傍に極性の別を表示すること。ただし、接続器を有するものであって、接続するとき極性の別を誤まるおそれのない構造のもの^{（解説 2）}にあっては、この限りでない。

（関連解釈）

別表第八 1 共通の事項 （2）構造

イ 通常の使用状態において危険が生ずるおそれのないものであって、形状が正しく、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であること。

（イ）「通常の使用状態において危険が生ずるおそれのない」とは、電源に接続した場合並びに機器に表示された定格及び機器の普通的使用方法により運転した場合に感電、火災及び傷害を生ずるおそれのないことをいう。

（ロ）「通常の使用状態」には、次のものも含まれる。

- a 中間スイッチ又は器体スイッチを有するものにあっては、これらのスイッチを開路の状態 で電源に接続した場合
- b 遠隔操作及び無人運転の機器（タイマーで OFF するものを含む。）を無負荷によって運転した場合
- c コードかけを有する機器にあっては、コードかけにコードを巻き付けて、機器の外方に 100N（自重の 3 倍が 10kg 未満の場合は 10N に kg の単位で表わした自重の 3 倍の値を乗じた値とし、最低 30N とする。）の力を 15 秒間加えた場合
- d コードかけ等を有する機器であって、そのコードかけ等の近傍に、コードが容易に器体内部に入る開口がある機器にあっては、その開口からコードを器体内部に押し込んだ場合